

やまなしライフサポート

LS YAMANASHI LIFE SUPPORT

NEWS LETTER10号 2017年11月発行
NPO 法人やまなしライフサポート
〒400-0836 甲府市小瀬町 654
山梨カトリック福祉センター
TEL/FAX 055-241-2545
E.Mail yls@mx6.nns.ne.jp
ホームページ http://yls.or.jp/

路上生活者支援から生活困窮者支援へ

NPO 法人やまなしライフサポート事務局長 芦沢 信

路上生活者(ホームレス)という言葉からどんなイメージを持つでしょう? 橋の下、公園、ブルーシート、廃品回収、等でしょうか。確かにそうかもしれません。やまなしライフサポートが発足した8年前には、甲府市とその周辺の10の公園、18の橋に20名を越す路上生活者がおり、毎週木曜日に炊出しの弁当を届けていました。

ところが現在では、そのように一定の居所をもつ路上生活者ほとんどいなくなりました。当法人の支援で生活保護や年金を受けてアパートや施設に移った方が多いのが一番の理由です。しかしその背景には、①橋の下にネットが張られたり、公園のベンチに仕切りができていられなくなった ②ゴミの持ち去りが禁止され廃品回収で稼げなくなった ③病気やケガで働けなくなった、等路上での生活が続けられなくなってきた要因があります。

また、残念なことに適切な医療が受けられず誰にも看取られることなく亡くなった方や、罪を犯して刑事施設に行った方もいます。

では路上生活者はもういないのでしょうか? 長期にわたり同じ所に住み続けていた方が大幅に減少した反面、突然住居を失い助けを求めてくる方は後を絶ちません。今年度前半6か月で緊急無料宿泊施設ライフ荘の利用者が34名(延べ396泊 前年同期比177%)だったことがそれを示しています。その中で多くを占めるのが非正規雇用(派遣社員、契約社員、アルバイト等)で職を失い、寮やアパートを出ざるを得なくなった方たちです。失業後多少の蓄えがあれば格安ホテルやネットカフェで過ごしますが、その間に次の仕事が決まらなければ路上に出ることになります。また、同居

してきた親が亡くなり住めなくなった方、家庭内暴力で家を出た方もいます。

2015年度から、生活困窮者自立支援制度がスタートしました。当法人は県内5市(甲府市、笛吹市、山梨市、中央市、都留市)から委託を受け、家を失った方に緊急一時宿泊施設ライフ荘で衣食住を提供し、就労支援や生活保護の相談援助を行っています。家を失った方が市役所に相談すれば、この施設を利用できる可能性は高いので以前より間口は広がっていると思います。

さて、この生活困窮者自立支援制度の特長は、相談の範囲を限定していないことです。住む所を失ったということばかりでなく、失業、借金、DV、ひきこもり、子どもの貧困等多岐にわたります。それらの方々への対応も自治体から要請されており、既に複数のひきこもりの方への訪問支援活動を行っています。

50代のひきこもりの子が80代の親の年金で暮らす「8050問題」がクローズアップされています。親が亡くなると子の生活は成り立たなくなります。2015年に山梨県が行った調査では、県内のひきこもり者は825人で、40歳以上が6割を占めていたといいます。事態悪化防止のための対応が求められています。

このように当法人の活動は、路上生活者から突発的な失業者=住居喪失者への対応へシフトしてきており、新たにひきこもり(住居喪失予備軍)の方への対応も加わっています。仕事を失った方への就労支援活動及び、ひきこもりの方の自立支援に関する専門力を一層高めていきたいと考えています。

2017年度前半の主な活動実績

2017年4月~2017年9月 人数は延べ数

炊出し(弁当配布含む)	833名(25回)	緊急一時宿泊(ライフ荘)	34名(396泊)
健康相談	296名(51回)	生活保護申請	14名(受給実績14名)
路上生活者面談	167名(137回)	就労相談、就労サポート	82名(就労実績17名)
生保・年金受給者面談	131名(96回)	見守りパトロール	115名(50回)

特集 就労支援

やまなしライフサポートではキャリアカウンセラーや社会福祉士等のスタッフによる就労支援を行っています。

就労支援に向けた相談は、炊出し会場やふれあいサロンに来られた際に行うほか、緊急宿泊施設や相談者の自宅に出向いても行っています。

相談は次の流れで進めています。

- ① 最初は、相談者の話をしっかりお聞きします。
働くうえで何が問題か？希望の労働条件は何か？等
- ② ご自身の振り返りをさせていただきます。
・仕事ができる状態か？ ・過去の職業経験は？
・仕事に就きたい意欲は？ ・新しい条件にも挑戦する気持ちは？
・今度の仕事は当面ですか？ 長く続けますか？
- ③ 応募の気持ちができたら準備をします。
・合格につなげる応募種類の作成。 ・ハンディを切り抜ける面接練習。
・寮付き求人案件探しや連携している企業の紹介。
- ④ 実際の行動を支援します。
・ハローワークや就職支援窓口への同行。 ・公的機関での職業適性診断による能力理解のアシスト。
- ⑤ 就職が決まるまでに「就労準備」を勧めます。
・炊出し会場や見守りパトロールでのボランティア活動への参加。
・ふれあいサロンでの農作業や除草、自立生活を始める方のための引越し手伝い他。
- ⑥ 就職後には定着に向けたフォローも行います。



炊出し会場での相談風景

最近の支援状況

2016年4月から2017年10月までに当法人が支援した方は74名でした。

最近の特徴として、30～50代の働き盛りの世代が多いことがあげられます。その主な要因は、不安定な身分（非正規雇用）のため、職場や私生活で問題が発生すると解雇に結びつきやすいことです。頼る親族がなければ一挙に「ハウスレス」+「ホームレス」になってしまいます。新しい職場を求める場合でも、多くの方が「寮付」や「住込み」を希望しますが、山梨県内では応募企業がかなり限定されるのが現状です。

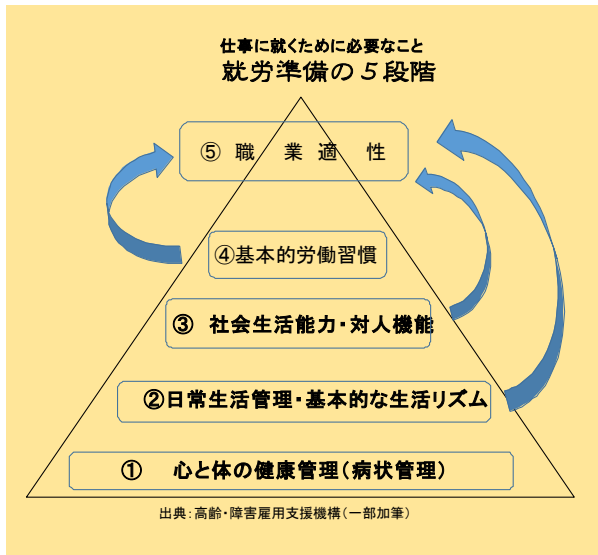
生活保護受給者に対して、「少しでも収入を増やして生きやすくしよう」との呼びかけを行い、働こうとする方が少しずつ増えています。ボランティア活動を含め、働くことで生活のメリハリを得た方も出てきています。

	入口						出口				
	路上生活・失業中	ひきこもり・障がい	家庭内暴力	就業者	生活保護受給中		生活保護	生活保護+就労	就労	就労苦戦・奮闘中	転居・治療・他
20代	4人			3人				6人		1人	
30代	10人	1人	2人			1人		9人	1人	2人	
40代	15人	2人	3人			5人	3人	5人	1人	6人	
50代	10人	3人	1人		1人		6人	6人		3人	
60代～	14人	1人	5人			13人		1人	1人	4人	
合計	53人	7人	10人	3人	1人	19人	9人	27人	3人	16人	
構成比	72%	9%	14%	4%	1%	26%	12%	36%	4%	22%	

相談の時心掛けています

利用者の方には、「就労準備の5段階」を参考にしつつ、ご本人の目的がどのように達せられるかを願いながら行動するよう心掛けています。(キャリアカウンセラー津田博幸)

- ① 寄り添う(side by side) … ご本人が“今”“何を”一番求めているかをしっかり“聴”きます。
- ② 少し背中を押す(soft push) … つらい思いを避けながら、歩みを進めます。
- ③ 見守る(watch) … 意欲や行動に移せる時期を待ちます。
- ④ 一緒に作業(with work) … やって見せて させてみます。
- ⑤ 経験を話してみる(pier-talk) … 自分の失敗や困ったことの体験話してみます。



⑤ 仕事をする力

- ・作業の正確さ、持続力、仕事に対する意欲
- ・適性、技能、資格、経験など

④ 職業生活を続けられる力

- ・マナー: 身だしなみ、言葉遣い、挨拶
- ・職場のルール: 報告・連絡・相談、指示の受け方
- ・安全管理: ケガの防止

③ 生活を続けられる力

- ・見だしなみ: 場にあった服装、清潔
- ・会話: 相手の話が聞け、自分の考えを伝える。
- ・環境への適応: 生活習慣の変化に対応

② 日常生活を保てる力

- ・金銭管理: 決められた生活費の中での計画性
- ・規則正しい生活: 睡眠、食事、趣味、運動

① 健康を管理する力

- ・健康管理: 体調不良時の対応、服薬の確認、飲酒や喫煙のコントロール
- ・障がいの理解

就労支援の事例

	Aさん(30代前半、男性)	Bさん(40代半ば、男性)
経過	父子家庭であったが、父親死去によりアパートを退去せざるを得なくなった。友人宅で間借りしていたが、友人も転居するため、住居を失い地元の自治体に相談した。	当初は市役所から「ひきこもり」の支援を要請された。東日本大震災で会社が倒産して失業したが、父母の介護を行っていた。しかし、6年間仕事につかなかったことと父母の死去により公営住宅の退去を求められた。
支援内容	ライフ荘に宿泊しつつ、地元自治体関連団体の紹介により警備業を受験したが内定が得られなかった。改めて、応募書類(履歴書、職務経歴書)を書き直すとともに、当法人連携先の企業・仕事研究、面接応答練習を行った。県外の寮付き土木建築業に応募するように勧めた。また、応募後に将来のキャリア形成を考えるため、関連団体で職業適性診断を受診した。	市役所の担当者と数回訪問したが、連絡が取れなかった。その後の巡回訪問時に会うことができ、市と連携して生活保護申請とアパート入居を斡旋した。同時に就労支援を始めたが、ハローワークの紹介(フルタイム、発送内勤業務)を優先した。面接したが内定を得られなかったため、当法人の人脈で週1回アルバイトを行うことになった。
現在の状況	県外の寮付き土木建築業に合格し入社した。1週間程度現場作業勤務後に、改めて重役面接があり事務員として正社員登用となった。情報系専門学校卒業とその後の職務経歴が評価された。 「生活の基礎を築くことと、早く仕事に慣れ職務遂行能力を発揮できるように努力したい。」と語っている。	雇用先から重宝され勤務日数も増加し、何よりも過去の職業経験(対人交渉や接客)を活かすことにより、顔色もよくなったきた。 「次のステップで短時間・長期契約の仕事をこなしてからその先を考えたい。」と語っている。最終的には生活保護脱却を目指し今後も相談を継続する予定である。

就労相談 Q&A

就労相談でよくある質問と対応を紹介します。

	よく出る疑問・質問	いっしょに考えましょう
1	もう年だから…	限界は自分で決めないで
2	何もできるものは無い…	昔取った「杵柄(きねづか)」を見直しできませんか？
3	何でも良いので仕事を探して…	嫌いな仕事でもしますか？好きな仕事から少しずつ広げませんか？
4	億劫になっている…	出来るところからポチポチはどうですか？
5	身体に障害がある。過去の経歴もあるので無理…	障害のある方やその他のハンディを理解して雇用する企業とも提携しています。
6	働く和生活保護費が減額される…	総額で手取りが増えるよう市福祉担当者との話を手伝います。
7	お金にならないボランティアなんて…	お礼や笑顔等が返ってきて、楽しみ・生き甲斐が増えませんか？認めてくれる仲間も増えるのでは？
8	家無し、金無し、家族無しでは…	今ここにおられる”ご本人と現実”にしっかり向き合い、知恵を出し合いませんか？

ボランティアさん募集

当 NPO の活動に協力していただけるボランティアを募集しています。詳細につきましてはお気軽にお問合せください。

1. 炊出しボランティア

- ・毎週木曜日 午後 2 時～5 時(一部でも可)、カトリック甲府教会にて
- ・調理、配食、片付け等のお手伝いをさせていただきます。

2. 見守りパトロール

- ・隔月第 4 日曜日 午後 2 時～4 時 30 分頃 カトリック甲府教会集合
(8 月、12 月は夜間パトロールとなります。詳細は別途お問い合わせください。)
- ・数グループに分かれ、甲府市と周辺部をパトロールし、路上生活者の発見や安否確認をします。

物品のご寄付を募っています

路上生活をされていた方がアパートでの生活を始めるにあたり、様々な生活用品が必要になります。多くのご寄付をいただいておりますが、現在右記の物品が特に必要です。ご連絡いただきましたら当方より受け取りに伺いますのでよろしく願いたします。

小型冷蔵庫、洗濯機、電子レンジ
小型テレビ、電気炊飯器、コタツ、
電気ポット、自転車、カーテン、布団

会員募集中です

やまなしライフサポートの活動を資金面で支えてくださる方を募集しています。

正会員(当団体を支援し活動に参加して下さる方。総会での議決権有り)	年会費 個人 5,000 円 団体 10,000 円
賛助会員(当団体の活動を応援して下さる方)	年会費 個人 5,000 円 団体 10,000 円

入会申込書は、やまなしライフサポートのホームページ(<http://yls.or.jp/>)からダウンロードすることができます。